

自然災害発生時におけるBCP業務継続計画
(障がい福祉サービス類型：通所系)
放課後等デイサービスTOPS

運 営 法 人

法人名	一般社団法人いんくる郡山		
代表理事	滝田 剛		
管理者	渡邊悦子		
所在地	福島県郡山市大槻町字小山田前10		
電話番号	024-955-6207	FAX	024-955-6208
Email	incul-tops@at.wakwak.com		

事 業 所

事業所名	一般社団法人いんくる郡山		
種別	障がい児通所支援事業		
管理者	渡邊悦子		
所在地	福島県郡山市大槻町字小山田前10		
電話番号	024-955-6207	FAX	024-955-6208
Email	inclu-tops@at.wakwak.com		

1.総論	1
(1) 基本方針	
(2) 推進体制	
(3) リスク把握	
①ハザードマップなどの確認	
②被災想定	
(4) 優先業務の選定	
①優先する事業	
②優先する業務	incul-tops@at.wakwak.com
(5) 研修・訓練の実施、BCPの検証・見直し	
①研修・訓練の実施	
②BCPの検証・見直し	
2.平常時の対応	5
(1) 建物・設備の安全対策	
①人が常駐する場所の耐震措置	
②水害対策	
(2) 電気が止まっ;時の対策	
(3) ガスが止まっ;時の対策	inclu-tops@at.wakwak.com
(4) 水道が止まった時	
① 飲料水	
② 生活用水	
(5) 通信が麻痺した場合の対策	
(6) システムが停止した場合の対策	
(7) 衛生面（トイレ等）の対策	
① トイレ対策	
② 汚物対策	
(8) 必要品の備蓄	
(9) 資金手当て	
3.緊急時の対応	9
(1) BCP発動基準	
(2) 行動基準	
(3) 対応体制	
(4) 対応拠点	
(5) 安否確認	

① 利用者の安否確認	
② 職員の安否確認	
(6) 職員の参集基準	
(7) 施設内外の避難場所・避難方法	
(8) 重要業務の継続	
(9) 復旧対応	
① 葉損個所の確認	
② 業者連絡先一覧の整備	

4.他施設との連携	12
-----------	----

(1) 連携体制の構築	
-------------	--

5.通所系。固有事項	12
------------	----

<更新歴史>	13
--------	----

【様式①】 園児及びご利用児安否確認シ	14
---------------------	----

【様式②】 職員の安否確認シ	15
----------------	----

【様式③】 建物・設備の被害点検シート	16
---------------------	----

【様式④】 連絡先リ	17
------------	----

【様式⑤】 備蓄品リスト	
--------------	--

1.総論

(1) 基本方針

【一般社団法人 いんくる郡山 基本方針】

当法人は児童福祉事業を運営しており、放課後等デイサービスの福祉サービスを提供しています。近年、全国各地で痛ましい被害報告のある地震・津波・豪雨の災害発生において、おこさまの支援の停止は生命の危機や機能低下をももたらす恐れがあるため、災害時であっても命と共に生活を送る最低限の支援サー。

以下は項目ごとに分けて運営の目incul-tops@at.wakwak.com

①安全確保

ご利用者さまの命を守り、安全を確保しつつ、非常事態でも安心できる生活の場を提供します。

②支援サービスの継続

深刻な状況となっげしまうご利用者さまのサービスを優先して、できる限り再開いたします。
(レスパイトケアを含む)

③職員安全と安心・雇用について

職員（保育士・支援員）は自inclu-tops@at.wakwak.com

守ることができます。また、災害発生時にも事業を継続することにより、

当法人の運営を健全に保ことは職員の雇用を守る上でも重要であると考えております。

職員の安全や安心は法人への帰属意識向上にも繋がり 職員の生活をまもります。

④地域

日頃より、地域との連携を図り、季節行事等のイベントにご参加を促していきます。

当法人の運営に興味やご協力をいただくことで「共に生きる」ことをご理解頂きたいです。

地域の災害対応向上に寄与することができ、地域における当法人の存在意義を

認知して頂けるように努めて参ります。

(2) 連帯体制

主な役割	部署・役職	氏名	補足
全体の方針や計画の最終決定	管理者	渡邊悦子	
財務や労務関係	会計・理事	阿部千春・滝田春奈・中路良一	
災害時の業務と上記補佐	理事長・児発管	滝田剛・渡邊悦子・石塚由紀	
通所全般	理事長・児発管・主任指導員	滝田剛・渡邊悦子	石塚由紀
災害時の食料補給	管理者	渡邊悦子・全職員	事業所内備蓄

(3) リスクの把握

①ハザードマップの確認 ※別紙マップ参照（職員室壁に貼り付け）

incul-tops@at

②被害想定

【自治体公表の被害想定】

最大震度	リスク	備考
施設築年数（耐震化工事）	想定 6 強 昭和 年度築 耐震検査 年合格	
津波	なし	
浸水被害	<input type="checkbox"/> なし	
	<input type="checkbox"/> あり（浸水深さ m）	
土砂被害	<input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> なし	
液状化	<input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> なし	

inclu-tops@at

.wakwak.com

.wakwak.com

【通所部門固有・送迎の関する】

送迎ルート	該当者
<input type="checkbox"/> 土砂 <input type="checkbox"/> 津波 <input type="checkbox"/> 不可 <input type="checkbox"/> 不明	
<input type="checkbox"/> 土砂 <input type="checkbox"/> 津波 <input type="checkbox"/> 不可 <input type="checkbox"/> 不明	
<input type="checkbox"/> 土砂 <input type="checkbox"/> 津波 <input type="checkbox"/> 不可 <input type="checkbox"/> 不明	
<input type="checkbox"/> 土砂 <input type="checkbox"/> 津波 <input type="checkbox"/> 不可 <input type="checkbox"/> 不明	
<input type="checkbox"/> 土砂 <input type="checkbox"/> 津波 <input type="checkbox"/> 不可 <input type="checkbox"/> 不明	

交通被害

道路： ①内環状線 ②49号線 ③うねめ通り ④美術館通り ⑤4号線バイパス
⑥桜通り ⑦新さくら通り

橋梁： ①

鉄道：

ライフライン

上水道： 1週間～1ヶ月

下水道： 1週間～1ヶ月 inclu-tops@at.wakwak.com

電気：

ガス：プロパンガスが使用不可ならカセットコンロ準備

通信：電話→被災直後には不通、1～2週間またはそれ以上

携帯→被災直後からつながりにくくなる。概ね3日から5日で一部復旧見込み

インターネット→電話→被災直後に不通。1～2週間またはそれ以上

【自施設で想定される影響】

	当日	2日目	3日目	4日目	5日目	6日目	7日目
電気	不明						
飲料水	保有水（ペットボトル）						
生活用水	お風呂の水利用						
携帯電話	繋がりにくい状況が続く見込み						
メール	繋がりにくい状況が続く見込み						
調理	備蓄品を使用						

(4) 優先業務の選定

①優先する事業

< 優先する事業 >

■通所

基本的には休止をするが、ご家庭の状況により支援が必要または、
保護の対象となる児童、生徒においては時間短縮のご協力等を検討して受け入れる。

※送迎サービスは中止とする

②優先する業務

優先業務	必要な職員数			
	朝	日中	夕	夜
再開に向けた整備	1～2名			
通 所	2名	3～6名	3名	必要に応じ
他機関との連絡調整	1～2名			

(5) 研修・訓練の実施、BCPの検証・見直し

①研修・訓練の実施

訓練実施の方針、頻度、概要等について記載する。

incliu-tops@at.wakwak.com

■年間目標を年間計画を毎年作成し、実施をする。

■地震と火災訓練による避難訓練

■風水害による避難訓練

■事業継続に関わる部分訓練を適宜実施

①引き渡し訓練

②帰宅困難対応訓練→寝袋や炊き出し等

③安否報告訓練→公式LINE一斉送信

④情報収集訓練

⑤ライフライン停止時の調理や排せつ訓練

年1～2回以上

②BCPの検証・見直し

評価プロセス

■訓練毎に気づいたことや見直しが必要な部分は職員間で情報共有する。 また。次回の訓練に反省点を改善するためにも職員会議の議題に項目を追加する。
■委員会を設置し、年1回見直しを実施する。
■年度末に年間の目標に対して達成度を評価する。
■次年度の目標設定や年間計画に反映させられるようにする。
■継続した評価と改善を繰り返し行うこと。

項目	内 容
BCP	①送迎時のマニュアル整備 ②外部協定の検討 ③訓練した部分は結果を反映して見直す
備品	①随時災害食を更新 ②発電機・テント・防災用釜の購入を検討 ③使用訓練
人材育成	①普通救命講習を受講する ②送迎時の災害対応を全員が理解する ③帰宅困難時の対応シュミレーション訓練を行う ④風水害時の情報収集訓練を実施する ⑤公式LINEを使った安否確認訓練を実施する

inclu-tops@at.v

2.平常時の対応

(1)建物・設備の安全対策

①人が常駐する場所の耐震措置と設備の耐震措置

場所	対応策	備考
職員室	書庫 エアコン	L字金具固定
学習室	額 教材などの押し入れ	
プレイルーム	エアコン 神棚 本棚	固定 転倒防止バー
和室	着替などのタンス（作り付け） 本棚	金具 転倒防止バー
台所	カップボード（作り付け）	扉がないので入れ方の工夫



vakwak.com

②水害対策

対策	対応策	備考
1 階玄関	土嚢の準備	
台風	事前準備と対応基準	天気予報

(2) 電気が止まった場合の対策

稼働させるべき設備	代替策
冷蔵庫	保冷剤・クーラーボックス
PCや事務所携帯電話	大容量バッテリー
照明	懐中電灯
冷房	
暖房	石油ストーブ・使い捨てカイロ・毛布
調理器具	カセットコンロ

(3) ガスが止まった場合の対策

稼働させるべき設備	代替策
給湯（お湯）	カセットコンロ・石油ストーブ
調理	カセットコンロ

inclu-tops@at.wakwak.com

(4) 水道が止まった場合の対策

- ①飲料水 備蓄水を使用・電気があればボトルタンクの水を使用
- ②生活用水 お風呂の水を使用

(5) 通信が麻痺した場合の対策

■職員間 シフト表グループライン→携帯電話に連絡 ■ご利用者（保護者） ライン・携帯電話などで連絡 ■各所管 PC・メールまたはHPに掲載

(6) システムが停止した場合の対策

■PCの保護、 ■PCバックアップの確認 ■請求システム稼働の確認
--

(7) 衛生面（トイレなど）の対策

①トイレ対策

【ご利用者や職員】

■簡易非常用トイレ

→排水が可能な場合はお風呂の水を使用

→便座にごみ袋を設置

→凝固剤を使用

■おむつ類

→帰宅困難を想定して1日～3日分に予備を常に用意

②汚物対策

■通常通り生活ゴミ扱いとして捨てる

→回収が停止している場合、もしくは場所等の変更も想定されるので
情報収集をして対応していく。敷地内仮説場を設け、不衛生対策
としてビニールシートを利用し管理する。

(8) 必要品の備蓄

(9) 資金手当て

■各種保険証の一覧作成（火災・車両・人身）

→手元資金をして持ち出し（inclu-tops@at.wakwak.com）

3.緊急時の対応

(1) BCP発動

【地震による発動基準】

- 郡山市内で震度5強（市内全域が観測された場合）
- ライフラインの停止
- 公共交通が不通になった場合
- その他管理者が必要とみとめた場合
（福島第一原発の状況など）

【水害による発動基準】

- 大雨洪水・豪雨等の警報・注意報が発表された場合
- 近くにある河川の増水で被害が想定される場合

管理者	代替者①	代替者②
渡邊悦子	石塚由紀	藤田幸子

(2) 行動基準

※別紙行動基準参照

(3) 対応体制

※別紙行動基準参照

inclu-tops@at.wakwak.com

(4) 対応拠点

第一候補場所	第二候補場所
小山田小学校	小山田地域公民館

(5) 安否確認

①ご利用者の安否確認

【安否確認ルール】※安否確認表参照

②職員の安否確認

【安否確認ルール】※安否確認表参照

(6) 職員の参集基準

【自動参集基準の対象外等】※参集ルール表参照

(7) 施設内外での避難場所・避難方法

【施設内】

第一避難場所		第二避難場所
避難場所	プレイルーム	玄関前
避難方法	【共通】 ①職員の呼びかけで子どもたちに地震が起きたことを知らせる。 ②1名の職員はプレイルームで待機 ③その他の職員は誘導またその場で待機 歩行が難しい利用者に対しては抱きかかえるなどして移動。	揺れが収まり状況により外に移動。

【施設外】 →※別紙安否確認参照

(8) 重要業務の継続

職員数	ご利用者	業務内容
3名～5名	■あぶくま支援学校（小学校） 6名（最大数）	■外出は禁止（庭は可） ■日常生活に支障をきたさないように療育を行う
3名～5名	■あぶくま支援学校（高等部） 1名	■外出は禁止（庭は可） ■日常生活に支障をきたさないように療育を行う
3名～5名	■郡山支援学校（小学校） 1名	■外出は禁止（庭は可） ■日常生活に支障をきたさないように療育を行う
3名～5名	■小学校（支援クラス） 10名	■外出は禁止（庭は可） ■日常生活に支障をきたさないように療育を行う
3名～5名	■中学校（支援クラス） 1名	■外出は禁止（庭は可） ■日常生活に支障をきたさないように療育を行う

(9) 復旧対応

①破損個所の確認（チェックリスト）

対象	状況（しづれかに○）		対応事項/特記事項
建物	躯体被害	重大・軽微・なし	
	電気	通電・不通	
	水道	出・否	
	電話	通電・不通	
	インターネット	通電・不通	
設備 (各フロア)	ガラス	破損飛散・ヒビ・なし	
	天井	破損飛散・ヒビ・なし	
	床	破損飛散・ヒビ・なし	
	壁	破損飛散・ヒビ・なし	
	照明	破損落下・ヒビ・なし	
	エアコン	破損落下・不通・なし	
	各コンセント	通電・不通	

②業者連絡先一覧の整備

円滑に復旧作業を依頼できるように各種業者連絡先一覧を準備しておく

業者名	連絡先	業務内容	
テクノ事務機器	0248-76-1885	事務機器	inclu-tops@at.wakwak.com
須賀川ガス	0248-75-21898	ガス	
大越自動車		車両	
鈴木建築	090-9532-0399	躯体	

4.他施設との連携

(1) 連携体制の構築

【連携関係のある施設・法人】

【連携関係のある医療機関（協力医療機関等）】

医療機関名	連絡先	内容
医療生協		小児科

【連携関係のある社協・行政・自治会など】

名称	連絡先	内容

inclu-tops@at.wakwak.com

5.固有事項

【平時からの対応】

- 会議等で災害対応を検討→避難準備・備蓄などの促し
- リスクの確認→移動中ルート記載し確認
- ハザードマップに移動ルート記載し確認
- （通）車載の簡易マニュアル作成→移動中・訪問中の初動
- 引き渡しルールを決めて周知
- 帰宅困難者対応の寝具や食事・排泄・薬の備蓄等の用意
- 事業休止基準に設定と周知

【災害が予測される場合の対応】

- 地震関連情報時の時間短縮や休止
- 暴風域や警戒レベル3以上の事業休止や避難

【災害発生時の対応】

- 引き渡し
- 帰宅困難対応

<更新履歴>

更新日	更新内容	更新者
2025.8.15	連帯体制	石塚由紀
2025.8.15	緊急の対応	石塚由紀
2025.8.15	業者連絡先	石塚由紀

inclu-tops@at.wakwak.com